

とある社長の話

私の同業者でロータリアンでもある福島県の社長さんの話です。彼は毎日のようにゴルフをやります。私から見ても自由気ままに見えます。仕事もかなりヤリ手な方で私とは10年以上の付き合いになります。

彼と酒を飲みながら話をするのは、仕事の話はもちろん異業種の話から政治や経済その他スピリチュアルな話まで。そりゃワンマン社長といった感じの社長さんなのです。

そんな彼ですが、家庭と職場のバランスが絶妙なほど良く見えてくるのです。普段の家庭では本当に良い父であり時には怖い父でもある方で、世間一般的に良い家庭を作っているようです。

ある程度の問題は奥様が仕切り、よっぽどの事でない限り表には出てこない様な方です。

会社でも同じような感じで部下にほとんど任せている様な感じなのです。しかし、その部下に信頼が無ければ任せることはできません。会社の社員も同じです。任せるとは信頼や安心それ以上のものが無ければなりません。

家では奥様との信頼関係。会社内では社員。当たり前のことですが自分は実行しているかはわかりません。

会社の未来や方向性を社員が社長と同じ方を向き同じ目標を共有しているからこそできることだと思います。当然なことですが中々できる事ではありません。信頼し任せれば色々問題やトラブルが出てきます。そうした場合社長がアドバイスを出したり問題解決のために動いたりする事が大事なのだと感じました。

そう考えているうちに彼がロータリアンだと思い出しました。家族も会社のその信頼関係に基づく奉仕の精神だったのです。はたから見れば毎日ゴルフ三昧な自由気ままな社長ではあるが、本質は何気に家庭と職場の事を常に考えていたのです。

陰では色々見えないところで苦労していると感じました。それぞれ一つの目標を持つ社員と本当に信用しあえるという事は当たり前のようで中々で来る事ではないです。

これが「それぞれの職業奉仕物語」になるかは分かりませんが私の作文とさせて頂きます。